



ヒメアジサイ

牧野富太郎博士が長野県の戸隠の山麓にある村の人家で初めて見て、葉が厚く光沢があるアジサイとは異なり、花が優美であることから「ヒメアジサイ」と名付け、昭和4（1929）年に『植物研究雑誌』に学名・和名を発表しました。

博士は自宅の庭（現・牧野記念庭園）にヒメアジサイを植え、愛でていたといわれています。その後、庭園では姿を消してしまいましたが、博士の没後、次女の鶴代氏が高知県立牧野植物園にその一枝を贈ったものが、大切に系統保存されてきました。

令和4（2022）年、博士の生誕160年を記念し、植物園のご厚意で牧野記念庭園に里帰りしました。

